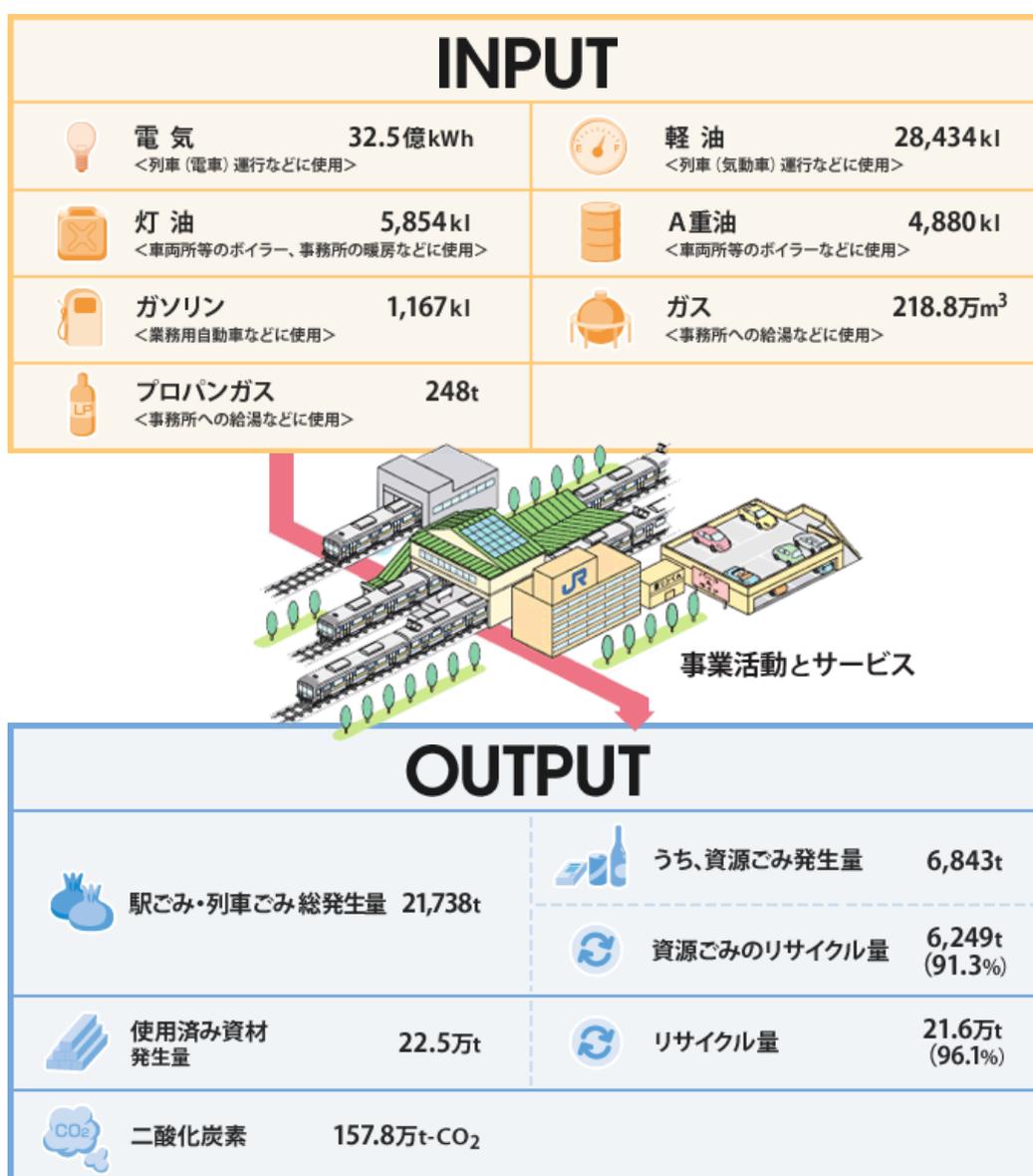


環境報告書 (2009年度)

環境負荷/環境目標

事業活動を行うにあたって、列車運行などに多くの電気や燃料などのエネルギーを使用（インプット）し、メンテナンスなどにもない廃棄物などを排出（アウトプット）しています。これらの定量的な把握に努め、環境負荷の低減につなげています。



環境目標

平成20年5月に公表した「JR西日本グループ中期経営計画2008から2012」における重要課題の一つとして、地球環境保護に取り組むことを明確にしています。

また、中期経営計画では達成年度を平成24年度とした環境目標を設定するとともに、単年度でも進捗管理を行っています。

具体的な取り組み（中期経営計画にて策定）

- 省エネルギー、省資源活動の推進
- 地球環境保護に資する技術開発の推進
- 鉄道の環境における優位性のアピールと公共交通利用の促進
- 社員一人ひとりの身近な地球環境保護の取り組みの推進

	平成20年度			平成21年度目標	平成24年度目標
	目標	実績	達成状況		
省エネルギー車両 ^[注釈1] 比率	66.9%	66.7%	ほぼ達成	68.3%	75%
エネルギー消費原単位 ^[注釈2] (平成7(1995)年度比)	-9.6%	-11.6%	達成	-12.1%	-12%
駅ごみ・列車ごみ(資源ごみ)のリサイクル率	設定なし	91.3%	なし	85%以上	85%
鉄道資材発生産品 ^[注釈3] リサイクル率	90%以上	96.1%	達成	90%以上	90%以上

^[注釈1] 省エネルギー車両とは、新幹線では100系以降、在来線では再生ブレーキ導入車（電車）、新型エンジン搭載車（気動車）をさし、事業用車両を含まない営業用車両での比率を示しています。

^[注釈2] エネルギー消費原単位とは、車両キロあたりの消費エネルギー（メガジュール/車両キロ）としています。

^[注釈3] 鉄道資材発生産品とは、鉄道のメンテナンスや建設にともなう発生する廃棄物で、古くなったレールや架線、車輪などがあります。

環境会計

環境保全活動に関わる投資・費用やそれにもなう効果を試算すると以下のとおりとなります。

分類	環境保全コスト (億円)		主な取り組み内容及びその効果	環境保全活動に ともなう経済効果 (億円)
	投資額	費用額		
公害防止コスト	12.3	16.0	<ul style="list-style-type: none"> ボイラーの管理 排水の処理・管理 沿線騒音・振動対策 など 	なし
地球環境保全コスト	223.9	10.7	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー車両や省エネルギー機器の導入 列車運行エネルギーの削減：車両キロあたり1995年比11.6%削減 省エネルギー車両の比率：新幹線100.0% 在来線（電車）58.5% 在来線（気動車）89.4% フロン・ハロン使用機器の管理や代替機器の導入 など 	82.2
資源循環コスト	11.9	69.3	<ul style="list-style-type: none"> PCB廃棄物の適正保管、処理 駅・列車ごみ（資源ごみ）のリサイクル：リサイクル率91.3% 鉄道資材発生産品のリサイクル：リサイクル率96.1% など 	5.8
管理活動コスト	なし	1.1	<ul style="list-style-type: none"> ISO14001認証維持活動（4箇所） 社員教育、テキスト制作 環境マネジメントシステムの水平展開・維持（207箇所） など 	なし
研究開発コスト	なし	8.7	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題にかかわる研究開発 など 	なし
社会活動コスト	なし	0.2	<ul style="list-style-type: none"> 環境関係展示会出展 子供向け環境パンフレット制作 公害防止賦課金 など 	なし
環境補償対応コスト	なし	15.6	<ul style="list-style-type: none"> 土壌汚染対策工事 など 	なし

<集計の考え方>

【環境保全コスト】

- 環境保全コストは把握可能なものを集計。
- 費用額に減価償却を含まない。

【主な取り組み内容及びその効果】

- 環境目標に定めた項目を中心に数値を集計。

【環境保全対策にともなう経済効果】

- 地球環境保全活動においては、省エネルギー車両や高効率型機器の導入に伴う電力・燃料費等の削減額を算出（推計値）。
- 資源循環活動については、事業活動により排出する廃棄物のうち、売却可能な有価物の売却額を計上。